



セバスチャン・サイズ & 佐藤卓磨（千葉ジェッツふなばし／バスケットボール）



セバスチャン・サイズ
（千葉ジェッツふなばし／バスケットボール）

&

佐藤 卓磨
（千葉ジェッツふなばし／バスケットボール）



6チームの注目選手や共通点を持つ選手・スタッフが、競技の枠を越えて様々なテーマでトークを行う、『京葉線プラス』限定のスペシャル企画「KEIYO TEAM6 クロストーク」。第19回は、千葉ジェッツふなばしのセバスチャン・サイズ選手と佐藤卓磨選手の対談です。いよいよ今シーズンも大詰め。悲願のリーグ制覇に向けて、お二人に熱いお話をうかがいました。

今シーズンから千葉ジェッツに加入 主力としてチームに貢献



全試合でパッションをぶつけて立ち向かう
©CHIBAJETS FUNABASHI / Atsushi Sasaki

千葉ジェッツふなばしは、創設10周年を迎えた千葉県初のプロバスケットボールチーム。Bリーグに所属し、常に優勝を狙う強豪チームへと成長しました。セバスチャン・サイズ選手と佐藤卓磨選手は今シーズンより加入し、主力選手としてチームを牽引しています。

——初めて千葉で暮らしてみて、住み心地はいかがですか？

セバスチャン・サイズ選手（以下、セバス）：とても暮らしやすく気に入っています。閑静なイメージもありますし、何かあれば都内にも行きやすい距離なので、とてもいい街です。

佐藤卓磨選手（以下、卓磨）：都会的な面もある一方で、自然豊かなところもいいですね。僕は小さい子どもがいるので、先日は公園に行ってきました。

セバス：なんていう公園？

卓磨：ふなばしアンデルセン公園。ドイツみたいな…

セバス：ああ、卓磨のSNSで写真を見たよ。良さそうな公園だね。

——4月からは、できたばかりの千葉ジェッツ専用体育館で練習をしていますね。

卓磨：プロ選手としてこういう場所を使えるというのは、世界的にみてもとてもありがたいことだと思っています。それにチームには富樫（勇樹）さんのような、世界的な選手もいます。この環境に感謝して、日々練習しています。

セバス：千葉ジェッツにとって、大きなステップになっています。チーム練習やそのあとのワークアウト、トレーニングからケアまで、一つの場所でできるのですから。チームがもっと成長すると信じています。食堂も併設されていて、練習が終わったあとに食事をとることもできます。とても美味しいですよ。

卓磨：好みによって料理にかけるソースが選べて、例えば今日は自分がネギ塩、セバスはトマトソースを選びました。栄養士の方の監修のもと、選手の好き嫌いも考慮しながら調整してくださっています。

セバス：練習が終わったあとにすぐ栄養をとれるというのは、とてもいいよね。それに栄養士がチームについていることで、遠征先でもいい食事がとれています。

——セバスは日本での生活が2年目ですが、日本語はどのくらいわかるのですか？

セバス：チョットニホンゴワカリマス。いまは英語で話すことのほうが多いですね。アメリカ人には英語で、日本人には日本語で話すレベルまでいきたいけど、まだそこまでは到達していません。来年はもっと日本語でコミュニケーションをとれるようになりたいな。

卓磨：僕自身も英語がうまくなりたくて、英語で喋りたいと思っています。セバスはスペイン人だけど、スペインからアメリカの大学に行って英語を覚えたと聞きました。環境は違いますが、外国人選手からは英語を教えてもらって、僕が日本語を教えるという環境にいますので、それが毎日の楽しみでもあります。

セバス：チームの中で、卓磨はうまく英語を話すほうだと思います。彼はすごいよ。もし英語圏にいったとしても、全然困らないレベルだと思いますよ。

難しい状況下のシーズン 練習や試合の中断を乗り越えて



甘いマスクとは裏腹にいつでもエンジン全開！
©CHIBAJETS FUNABASHI / Atsushi Sasaki

今シーズンは、コロナ禍の難しい状況で進められてきました。アスリートにとってコンディショニング調整が難しい中、どのようにチームは成長してきたのでしょうか。チームが成長する転機となった試合はあるのでしょうか。

——お互いにどういうプレイヤーか、紹介をお願いします。

卓磨：僕は日本代表に選ばれて、世界の選手と戦ったことがあります。それでもセバスのように、これだけ身長が高くて、これだけ走れて、これだけスケールの大きい選手はいなかったと思います。スペイン代表にも選ばれる逸材の選手と同じコートに立ち、自分よりも高身長で、自分よりも速く、そして高いジャンプもするハードな選手と一緒にプレーできることが楽しくて仕方ありません。

セバス：卓磨はポジションの割に背の高い日本人で、外からのシュートだけではなくて中に切れ込んでのシュートもできるし、一生懸命にプレーするところが魅力です。でも何よりも、人がよくて性格がいいのが一番ですよ。

——公式サイトのプロフィールで、お二人とも大野篤史ヘッドコーチのお名前を挙げていますね。

セバス：「一緒にプレーしたい人」として名前を挙げました。選手だったらどういう選手なのか興味があるし、あとは1対1で対決して大野さんから得点を取りたいと思っています（笑）

卓磨：僕は「影響を受けた指導者」です。東海大学で論文を書くときに、大野さんが書いていた論文を紹介されました。それがきっかけで『ボールマンがすべてではない』という大野さんの著書を読み、すごく面白いバスケットの考え方をする方だなというのを知ったからです。

——セバスはチームメンバーと心の距離が近いように感じますが、意識しているのですか？

セバス：ええ、意識しています。長いシーズンを一緒に闘い、優勝という偉業を成し遂げようとしている仲間なので、共通理解を持つ必要があります。だからコミュニケーションをととても大切にしています。いいことはいい、悪いことは悪いと指摘し合えるようなチームになっていきたいので、褒めるだけではなくて、ときにはチームメンバーが聞きたくないようなことも敢えて伝えて、いいコミュニケーションをとるように心がけています。

卓磨：セバスも他の選手も、ジェッツに来る選手は人間として尊敬できる選手ばかりです。例えば代表クラスの選手が日本に来て、横柄な態度をとる場面を見たことがあります。でもジェッツの選手は常に平等に、勝利に向かって一つになろうとコミュニケーションをとります。その姿にリスペクトを感じているから、日本人選手たちも自分の力を出してチームに捧げたいという気持ちになれます。そういう意味でもいい選手たちが揃っていて、一緒に仕事していて楽しい。だからすごくいいチームだと思います。

——試合では、おふたりとも常にリバウンドに飛び込む印象があります。

卓磨：リバウンドは僕の強味の一つだと思っていますが、さらに反応の速いセバスの手がいつもビヨーンって伸びてくるので、そこはセバスに譲ることが多いかな（笑）

セバス：自分はボールの軌道を見て、どこにボールが落ちるかを先読みして動くようにしています。リング付近は俺がとるから、そこから跳ね返ったボールを卓磨がとればいいと思うよ。リングに近いところにいると遠くに跳ねるボールはとれないから、その位置を読んで卓磨が動いて取ってくれば。

卓磨：じゃあ、そのリバウンドから僕が一生懸命に前へ走って、アリウープパスを出して、セバスがダンクというのを今度やりたいと思います！

セバス：いいね！アリウープからのダンクは盛り上がるよね。決めたときは気持ちがいい！コロナ禍で大きな声が出せないけど、本当はそういうところでガーッと盛り上がる。早く声が出せるようになるといいよね。



初年度の復刻ユニフォームで戦った10周年記念試合でも躍動を見せた
©CHIBAJETS FUNABASHI / Atsushi Sasaki

卓磨：今シーズンは選手に新型コロナウイルスの陽性者が出たこともあって、練習も試合も中断せざるを得ない時期がありました。その影響でチームのコンディションが不安な時期もありましたが、今はいい雰囲気できていますし、よくコミュニケーションもとれています。優勝に向けて、しっかり準備ができていると思います。

セバス：僕もそう思うよ。難しい時期もあったけど、常に上位をキープしてきたし、ファイナルに向けて強くなり続けている。

——チームとして調子があがらない中で転機となった試合はありますか？

セバス：富山グラウジーズと40分で決着がつかず、オーvertime（延長）につぐオーvertimeの末に勝ち切ったホームゲーム（2020年12月20日）は、印象に残っています。卓磨は？

卓磨：あの富山戦は、チームプレーというか、みんなですごく戦ったという感じがしました。

セバス：試合をやりすぎて思い出すのが難しいけど、もう一つ覚えているのは10周年記念の試合だった新潟戦（2021年3月24日）。あれは印象的です。

卓磨：あの試合はセバスが22リバウンドを記録して、ほかの選手も制空権を手にとったという実感があります。ゲームを優位に進められて、これが千葉ジェッツの戦い方だと確認できたのがよかったです。そういう富山戦や新潟戦を経て、チームが上向きになったんじゃないかな。

セバス：確かにそうだね。

いくぜってっぺん！ 悲願のリーグ制覇に向けて



チーム随一と言われるディフェンスも必見！
©CHIBAJETS FUNABASHI / Atsushi Sasaki

千葉ジェッツには、どうしても欲しいタイトルがあります。Bリーグの制覇です。天皇杯3連覇という離れ業をやったのけた千葉ジェッツですが、リーグ優勝を決めるファイナルでは二年連続で敗北を喫し、優勝を逃しました。今季こそはと「いくぜってっぺん」を合言葉にブースター（ファン）とともに優勝を目指して闘っています。

——レギュラーシーズンの終盤は、延期した試合の代替試合で過酷なスケジュールでしたね。

セバス：そうですね。でも終盤の試合はとても大切で、できる限りいい準備をして臨んできました。一つひとつのプレーや試合が、順位や次の試合に大きく影響するので、一試合終わったら次の試合にフォーカスしてしっかりと戦ってきました。ポストシーズン（レギュラーシーズン上位チームで戦う、リーグ優勝をかけたトーナメント）になると、レギュラーシーズンとはまったく違う戦いになると思います。

卓磨：負けが続いた時期もあるのですが、それでも僕は、チームが上向きになると思っていました。なぜかというと、チームの状況がいいときだけじゃなくて、状況が悪いときに喋る選手が多くなってきたからです。キャプテンの富樫さんもセバスも、試合が劣勢で辛いときに声をかけて、ゲームをカムバックさせてくれます。雰囲気为重たくなったときに、チーム一丸となってスッと再浮上できる実感がありました。これから一つひとつの試合が大事になって、一発勝負という場面が出てきますが、そうなったときの雰囲気作りができると確信しています。チャンピオンを目指すチャレンジャーのつもりで、みんなが一つになって戦えているので、

「勝てる！」以外の気持ちがありません。負けん気というか反骨心というか、そういう気持ちがみんなの中に根付きました。

セバス：その通り、まったく同じ意見です。負けるなんて、考えることがありません。どの試合も勝ちたいと思ってプレーしているので、残りの試合もそういう気持ちで戦います。

——リーグ優勝への自信はいかがでしょうか。

セバス：いまチームのみんなが勝ちにこだわって、結果にこだわってプレーしています。シーズン最初のミーティングで、「このチームは勝つチームだ」と話をされたのが頭に残っていて、シーズン通して全員がそのマインドを持って戦っていると思います。選手間の競争率も高いし、みんな切磋琢磨して優勝へと突き進んでいます。

卓磨：僕も同じ想いです。みんな優勝したいのはもちろんで、何が何でも優勝を手繰り寄せてやる！という気持ちです。それに優勝することで自分の価値や、千葉ジェッツに関係する人々の価値がもっともってあがればいいなと思っています。



選手全員が一つになって戦っています
©CHIBAJETS FUNABASHI / Atsushi Sasaki

——優勝のためにキーマンとなるのは誰だと思いますか？

セバス：間違いなくチーム全員だよ。キープレーヤーとして誰か一人を挙げることはできないし、たった一人がチームに大きな変化を与えられるわけでもありません。みんながキープレーヤーにならなければいけないし、そうすることでチームがうまくいくと思います。

卓磨：僕も、誰か一人ということではないと思っています。みんながディフェンスとリバウンドを頑張って、みんながお互いのためにプレーすることが一番だと思うので、キープレイヤーは全員です。

——お二人とも、自分がキープレイヤーだって言うと思っていました（笑）

卓磨：あっ、そうです、自分です（笑）

セバス：違う、違う（笑）。単にどれか一試合を勝ちたいのであれば自分がキープレイヤーにもなれるかもしれないけど、優勝したいということであれば自分一人ではダメで、みんながキープレイヤーにならなければいけません。もちろんそれは選手だけではなく、コーチングスタッフ、ほかのスタッフも全員が、自分たちの仕事を徹底してやるということが大事だと思います。

——決勝で対戦したいチームはありますか？

セバス：誰でも構いません。目の前に来た相手は全員倒していかないといけないから、誰でもいい。

卓磨：川崎と栃木には2連敗しているので、そこはギャフンと言わせたいなというのはありますけど、僕もセバスに賛成です。

——テレビ放送もあるようです。どういうところを見てほしいですか？

セバス：みんなに見てほしいところは、フィジカルの強さと、野球やサッカーにはない速い展開です。得点も多く入るし、いろいろな方法で得点まで結びつくので、初めて見る方でも面白いと思います。

卓磨：千葉ジェッツというのは、バスケットボールの持つ魅力がいっぱいに詰まっているチームです。ハードなディフェンスから速い攻めに転じて、日本人選手も外国籍選手も全員が走ります。そこに富樫さんのようなファンタジスタが、セバスのような一流選手を使っていろいろな動きをするので、他のスポーツファンの方が見ても目が釘付けになると思います。

セバス：それに卓磨はいつもいい仕事をしてくれる。ディフェンスでもたくさん助けてくれるし、高身長とアグレッシブな動きで、相手にたくさんダメージを与えてくれる。卓磨が相手チームを封じ込めるから、チームは大助かりだよ。

卓磨：ありがとう、セバス。

——最後に、ブースターの方にメッセージをお願いします。

卓磨：負けが続いたときにショックを受けた方もいらっしゃるかもしれませんが、僕らは絶対

にあきらめません。常に戦い続ける姿勢を見せるので、ぜひこれからも千葉ジェッツのバスケットに期待してください。僕たちは、優勝しか見えていませんから。

セバス：いつも声援をありがとうございます。レギュラーシーズンでもみなさんの声援をたくさんいただいたのですが、これからのポストシーズンが一番大事な時期になってきます。みなさんが必要ですし、みなさんとともに“てっぺん”に立ちたいと思っていますので、これからもたくさんの応援をお願いします



対談中も握手やグータッチで仲の良い様子が見られました。

セバスチャン・サイズ
(千葉ジェッツふなばし)

背番号／22
ポジション／パワーフォワード・センター
生年月日／1994年7月15日
ニックネーム／セバス
出身地／スペイン
身長／205cm
体重／106kg
出身校／ミシシッピ大学



佐藤 卓磨(さとう たくま)
(千葉ジェッツふなばし)

背番号／14
ポジション／シューティングガード・スモールフォワード
生年月日／1995年5月10日
ニックネーム／たくま
出身地／北海道
身長／197cm
体重／93kg
出身校／東海大第四高→東海大学



取材・文／元盛恵（まいふれ）

